



2014年
ベラルーシとウクライナの国
境
(事故初期の30 km圏内)
立ち入り禁止
0.53 μ Sv/h



母子避難・保養は優先された。
子どもを放射能から守るために

ALARAの原則

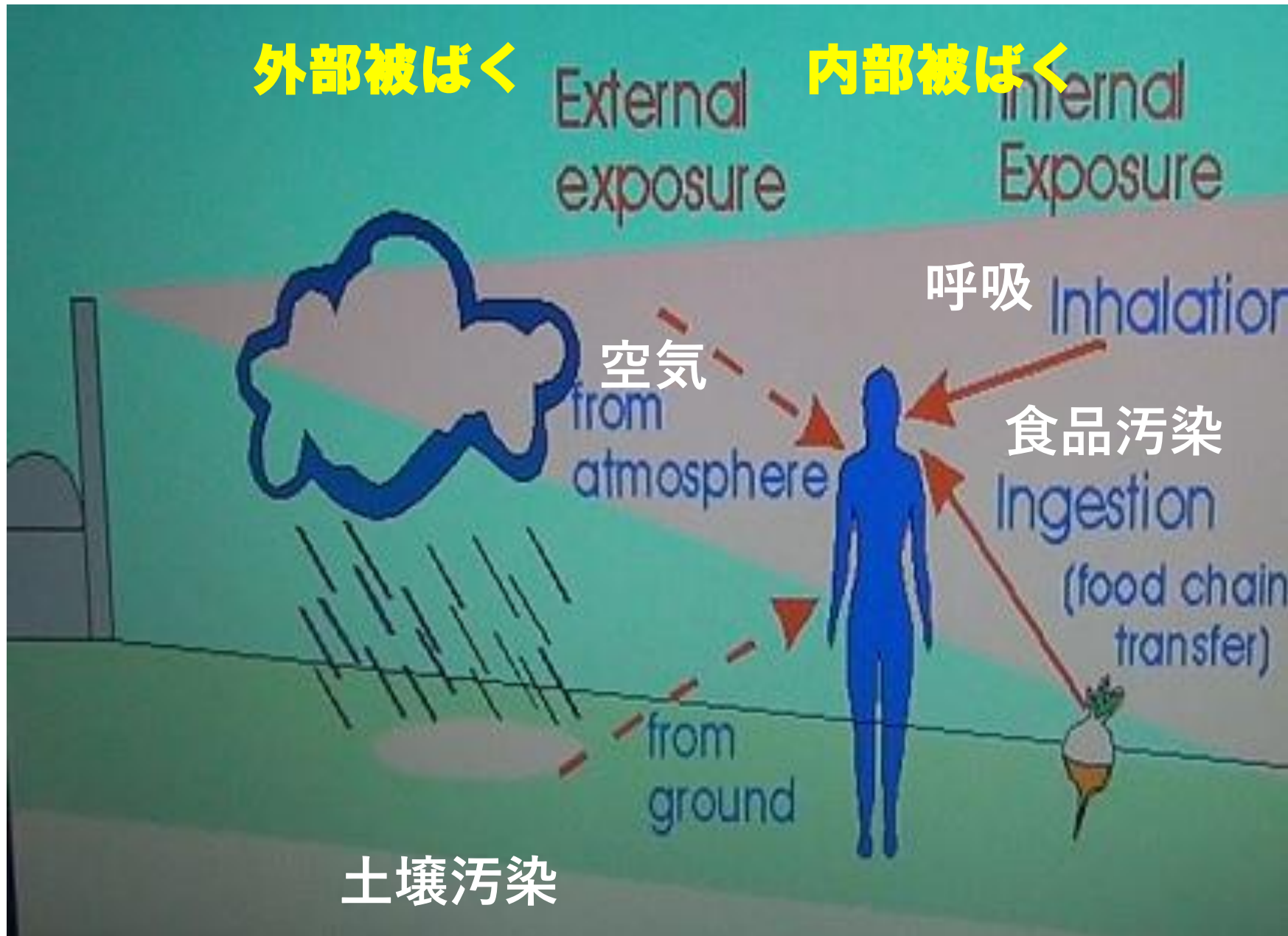
(安全性と経済性を天秤にかける)

5.5 $\mu\text{Sv}/\text{h}$ の常磐道
ベラルーシではこのような
汚染地帯の道路に面した住民の
健康被害がでるため
う回路になってる。

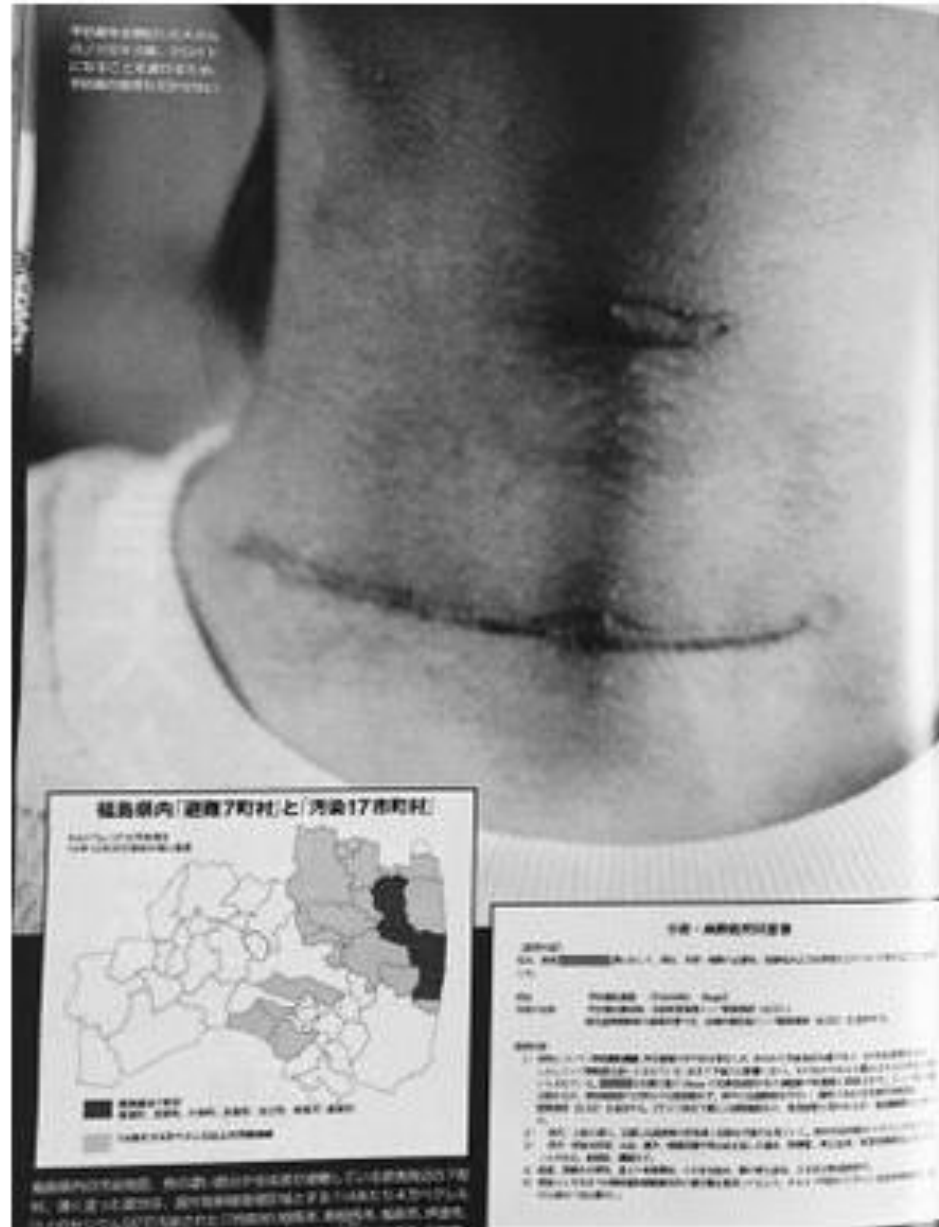


原発事故時の人体汚染の

ルート図

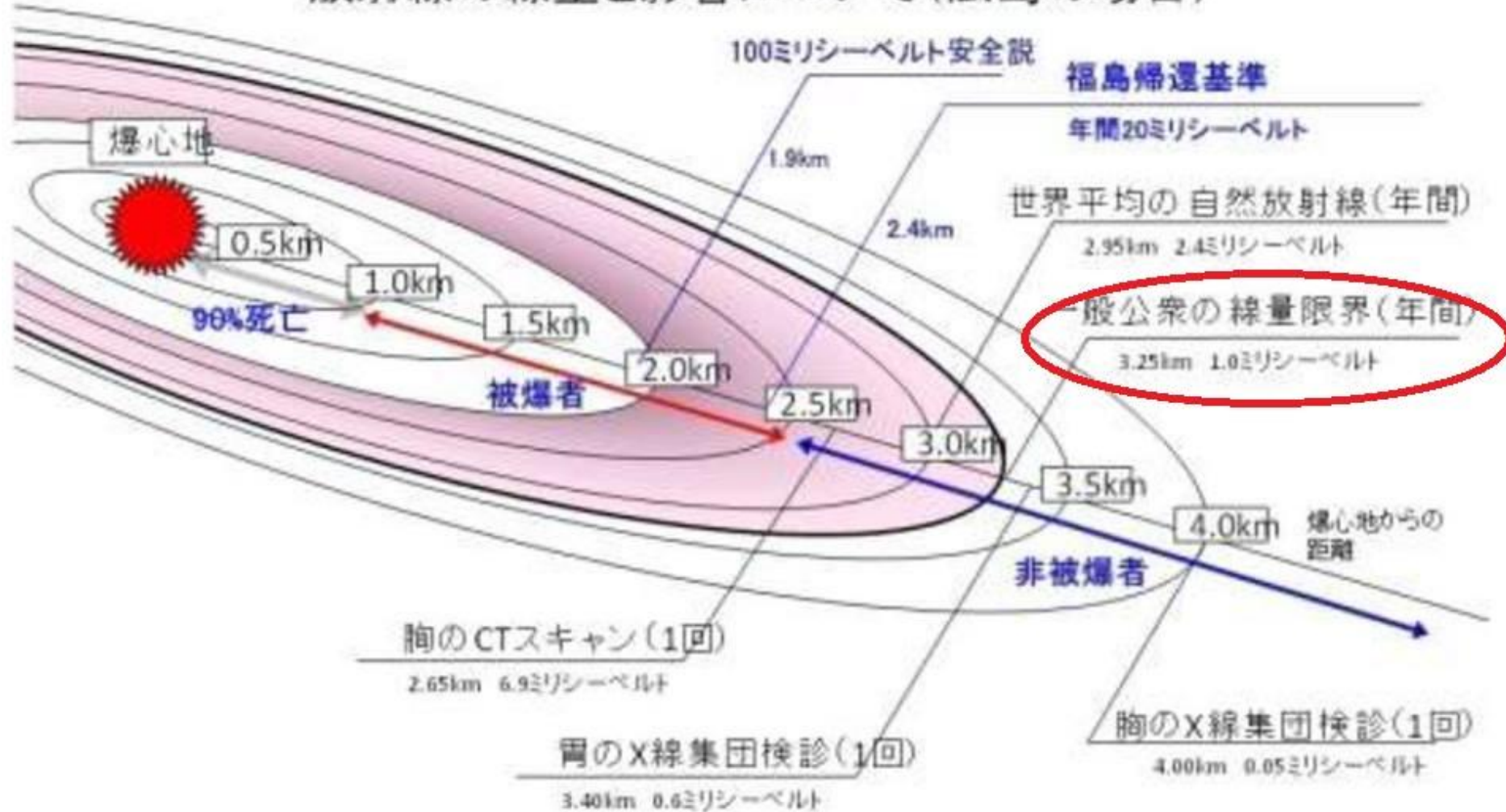


2015/09/25号のFRIDAY



日本は、事故から20ミリシーベルト地帯に暮らすことを余儀なくされてる。子どもたちが小児甲状腺がんになって、因果論を争ってる。すでに300人以上が手術を受けてる。議論は続く。社会は子どもを守ってるのか？一刻も早く福祉政策をつくって、保護をするべきではないのか？事故が起こるたびに同じことを繰り返してる。

放射線の線量と影響について(広島の場合)



原爆の被ばく者認定も「1ミリシーベルト」までは認められるようになってきた。日本は医療被ばくも、世界に比べて多いと言われている。